

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



特集

新型コロナウイルスの社会の分ちあい・拡がるフードパントリー(食品提供)

学生支援の フードパントリー

金沢区社会福祉協議会の学生支援

6月27日金沢区社協主催による学生への食品提供支援が行われた。予定人数は100名で大学からの一斉メールで情報提供したところ41分で満杯になった。7割が横浜市立大学生、3割が関東学院大学生。米1.5kg2袋、レトルト食品、缶詰、飲み物、菓子類などを提供。事前にプラスチックバッグに入れて手渡した。フードバンクかながわから1.4トンの食品を提供。



学生の声

家賃は仕送り、生活費はバイト。バイトは二つやっているが、ひとつはコロナで無くなった。就職先は決まった。あとは国家試験を頑張る。
<横浜市立大学医学部看護課4年>

家賃は5万。家賃は実家からの仕送り。生活費はバイトで稼いでいる。「すきや」でバイトしていたが、コロナでバイトがなくなり、その間は実家に援助してもらった。今は部活も始まり、生活費を稼ぐためにバイトを始めなければならない。就職は未だ決まっていない。大学からのメールでこの企画の情報を得た。
<関東学院大学4年>

子ども食堂の フードパントリー

インタビュー

新しいフードバンク設立

フードバンク浜っ子南

下山洋子さんはフードバンク横浜のメンバーとして2019年から活動後、独立し、「フードバンク浜っ子南」を立ち上げた。コロナ禍で見たこと、フードパントリー立ち上げに向けてお話を聞いた。

フードバンク横浜は、2016年設立しひとり親支援・奨学米・困窮者へ安心米などの活動を行っているフードバンク。下山さんが取り組んだのは、市内4カ所でのひとり親への登録制で継続的な食品支援。新型コロナの拡大に伴い支援希望者が急増し、2月の40件から3月60件、4月は90件。5月は130件と2月の3倍に増加した。実態はそれ以上の問い合わせがあるのだが、青葉区・都筑区など配布会場の中区から遠いエリアのため、あきらめた人もいる。二俣川から子どもを連れて自転車できた人もいた。みんな切羽詰まっている。食べ物がある安心が何よりも必要、近くにフードバンクがあればと切に感じた、と語る。

夜遅くメールしてくる人が多い。仕事を終え、子どもの世話をし、自分の時間は遅くなるのだと思う。食品を持ち帰った後、「久しぶりに子どもと笑いながら食卓を囲みました」というメールがきたりして、こちらが励まされることも多かったという。

新しいフードバンクは横浜の南エリア(戸塚・栄・港南・磯子)を中心にこの苦境の中にあるひとり親世帯への食支援活動を行う。「安心が幸せにつながる食支援ネットワーク」を目指し、地域の団体と情報共有し、食品提供を行っていきたい。新しいフードバンクには倉庫、仕分け場所などが必要だが、公益財団法人かながわ生き生き市民基金の『新型コロナ対応緊急応援助成』を受けて6月1日にスタートした。(写真はフードバンク浜っ子南のメンバー)
<https://www.fbh-minami.org/form.html>



フードパントリー 立ち上げ

寄稿

自分達だけでなく

みんなで力を合わせる地域づくりへ

~民生委員との連携で拡がる可能性~

NPO法人ちやっと 理事長 赤坂厚子

「NPO法人ちやっと」は、途切れることがない家庭支援を基本理念として子育て支援を主に運営してきています。その活動の中で、自分達の活動拠点を利用したり、横浜市内のケアプラザと連携したりしながら毎月1回のペースで子ども食堂の開催を行ってきました。新型コロナウイルスの為に全ての活動が休止してしまいましたが、何か出来ることはあるか、会えていない子育て世代にどうやらコンタクトとれるのかと考えて「無料食料品配布会」を開催することにしました。

最初は、子育てサロンに来ている親子が配布会に足を運んでくれましたが、徐々に近所の方へ広がり、次に民生委員の方々の見学がきっかけとなり、私たちの活動を評価し、「一緒にやりましょう」とお声がけいただきました。そのお声かけは本当に感動でした。お互いの役割分担を行い、当法人としても本来の目的である貧困世帯への配布が、民生委員さんが日頃から支援しているご家族へのお声がけをしていただくことにより支援へと繋がり、地域の輪を広げる事ができました。今後は来年3月まで毎月1回開催し支援を繋げていく予定です。

私たち法人が活動拠点としている地域と繋がる事はなかなかハードルが高いことでしたが、今回の緊急事態により大きな絆を産む事ができ、法人のスタッフと地域が顔の見える関係性ができました。そして今後は、日頃から遊びに来ている親子が地域へ出向く後押しができれば、もっと大きな輪が地域にできると思いながら活動しています。自分達だけで、と考えるのではなく、みんなでがんばろう！と、力を合わせていければと思います。



星の子無料頒布会



上星川町内会頒布会

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ info@fb-kanagawa.com 発行責任: 藤田 誠
236-0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45
Tel 045-349-5803



QRで
ホーム
ページ
へ

基本情報 2020年度の累計 (2020/6/30現在)

◇寄贈された食品 65.0トン	◇提供した食品 612回 57.9トン
事業者寄付 114回 62.0トン	行政・社協 165回 16.0トン
フードドライブ 118回 3.0トン	地域フードバンク 96回 16.6トン
	子ども食堂等 230回 16.9トン
	自立支援 17回 0.8トン
	福祉・病院 88回 7.3トン
	調整 16回 0.3トン

◇6月 寄贈30.0トン
提供29.7トン

合意書締結団体

寄贈締結団体 101団体
提供締結団体 173団体
行政・社協 45団体
市民団体 128団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)

賛助会員寄付状況 設立以来の累計

団体会員 122団体
494口 494万円
個人会員 220人
874口 874千円
寄付金累計11,975,043円

(2019年度実績 寄贈97トン2295回、提供92トン1504回 / 寄付金累計11,612,313円)

6月の寄贈食品:30トン超。
過去最高だった5月22トンを超えた。
4-6月累計の寄贈は前年同月比4.5倍。

【寄贈食品】(敬称略) 30.0トン

○事業者寄付 45回 29トン
ツクイからイベント中止によるハイチュウ1万個0.7トン、神奈川県市町村振興会から防災備蓄品約1トン、日本食研から鍋つゆ6,720個約5トン、コカ・コーラから紅茶花伝等多種の飲料7.5トン、鎌倉紅谷からお菓子類7.8トンなど多くの寄贈をうけた。米のニーズが増大する中、ユーコープ、ミツハシの定期寄贈のほかに、生活クラブ連合会から米1.4トン(計4.2トン分納)があった。新型コロナウイルス禍での食品ロス削減を目的とする農水省調整は徐々に減ってきている。
○フードドライブ(市民寄付) 43回 1トン
個人寄付25回、横浜市内の岸谷・ニッ橋・港北・高田の各小学校、金沢区役所(常設)、ユーコープ(常設)、パルシステム神奈川ゆめコープ(配達便)、JAよこはま、川崎労福協、横須賀市などから寄贈があった。6月1日からパルシステム配達便でのフードドライブが始まっている。20年度から常温可能な野菜の取り扱いを検討しているが、早速セレサ川崎よりジャガイモ100kgの寄贈があった。

【提供食品】29.7トン(以下特徴的の活動紹介)

- 学生支援実施
相模原市子ども・若者支援課4.2トン
横須賀市(170名に支援)456kg
金沢区社協(100名支援)1.4トン
- 地域のフードバンク
毎週実施のお福分けの会1.8トン
報徳食支援センター1.3トン
フードバンクかわさき1.2トン
フードコミュニティ812kg
- 寿町のカナンキリスト教会780kg
- 自治体社協への提供量増加。
二宮町社協 4月218kg⇒5月490kg
⇒6月1.9トン(19年平均107kg)
藤沢市社協 4月62kg⇒5月306kg⇒6月221kg(19年平均107kg)
綾瀬市社協 4月286kg(学童保育食事提供⇒5月55kg⇒6月68kg)
並木ヶアプラザ24世帯62名支援252kg、保土ヶ谷区社協105kg(19年平均32kg)、小田原市35kg(19年平均20kg) 神奈川区社協48kg



今月のメッセージ

理事 山口 友範さん

(生活協同組合ユーコープ執行役員・かながわ県本部長)

新型コロナウイルス感染症は全世界に拡大し、広範かつ深刻な影響が進行しています。社会的距離を取りながらも様々な方法で人々がつながり、助け合うことが求められています。

生活協同組合ユーコープは、公益社団法人かながわ生き生き市民基金「新型コロナ対応緊急応援助成」プログラムの活動に賛同し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、深刻化・長期化が懸念される生活困窮者を支援するための「新型コロナウイルス緊急支援募金」に取り組んでいます。募金を通じて神奈川県内の活動団体を支援し、必要な方に届いてほしいと思います。

また、7月1日から2か月間、神奈川県内のユーコープ79店舗で、フードドライブ活動を実施します。今年度はJAさがみ様と一緒にこのフードドライブ活動の広報をすすめる準備をしています。フードバンクかながわを通じて、様々な団体と連携し、地域の暮らしを支える活動を進めていきたいと思っています。



(公財)かながわ生き生き市民基金 【新型コロナ対応緊急助成結果】

50団体(第1次第2次計)6,086,986円
50団体のうち、フードバンクかながわ関連の団体は28団体。

弁当提供6団体 食堂3団体
パントリー(食品提供)12団体
テイクアウト2団体 配食1団体
学習支援おやつ提供 2団体 ほか
子ども食堂から食品提供に転じた活動、支援の急増する地域のフードバンク、新フードバンク立ち上げ支援など緊急的な助成で応援。

助成

(公財)かながわ生き生き市民基金 【新型コロナ対応緊急応援募金】

4月23日~8月31日
6月30日現在 3,000,084円
× 新たなコラボ

寄付

生活協同組合ユーコープ 【新型コロナウイルス緊急支援募金】

6月8日~6月28日で実施、約900万円の募金があり(公財)かながわ生き生き市民基金へ寄付しコロナ禍の困難を支援する市民活動への助成に活用される。



「3.11後のふくしまでの日々」の皆さんから藤田事務局長へ

寄稿

子ども医療センターにクルミっ子

「支えられる人にも支える人にも」

認定NPO法人スマイルオブキッズ 理事長 松尾 忠雄

神奈川県立子ども医療センター近くで患者・家族滞在施設「リラのいえ」を運営しています。難病治療のため、自宅を離れて入院する子どもと家族のための宿泊施設です。看病にあたる親御さんは買い物もままなりません。治療費等で経済的にもご負担が大きく、フードバンクかながわさんからの食材提供はとても助かります。ボランティアの松本さんをご寄付品を受け取り

に伺っています。先日は、鎌倉紅谷様から医療従事者の皆様への感謝を込めた贈り物を、医療センターに配達させていただきました。ご担当者様から「最高です!高級なお菓子をいただき、職員一同とても楽しみにしています。本当にありがとうございました。」と、笑顔のメッセージをお預かりしました。



ありがたいお金のご支援

フードバンクの活動がメディアで紹介され、食品寄付だけではなく、お金のご支援(寄付)も増えました。「3.11後のふくしまでの日々」冊子化活動の決算金を寄付していただきました。4月以降寄付総額619,600円。

